9月2日（水曜日）「安息日論争（1）」

【新改訳 2017】

ルカ　6.1-5

「すると、あるパリサイ人たちが言った。『なぜ、あなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。』‥‥・そして、（イエスは）彼らに言われた。『人の子は、安息日の主です。』」（2-5 節）

「安息日」は、神が天地創造のわざを六日で終え、第七日目に休まれたことに始まりました。後に、モーセの十戒の1つともなり、預言者たちも「聖なる日」として守るように勧め、イスラエル人の宗教生活の中心的な重大事でした（イザヤ 58:13,14）。今日で言えば土曜日に当たります。

この日は、一切の仕事や労働をしてはならないという伝承ができていました。ただし、ここに書かれている程度のことは許されていたのです。（申命 23.25）が、主イエスはダビデの例も取り上げて（Ⅰサムエル 21.1-6）、パリサイ人たちの思い違いを指摘し、安息日のために人間があるのではなく、人間のために安息日があることを教えら

れたのです。今日の「主の日」についても、正しい理解をもって祝福されますように。

～祈り～

主よ。主の日を正しく理解し、守ることができるように、そして、真に主の日の祝福にあずかれるようにお守りください。

【学びのために】

申命 23.25「隣人の麦畑の中に入ったとき‥‥‥穂を手に摘んでもよい」ということばは、聖書に書いてあるから今日もそうしてよいということではありません。当時の、ユダヤ人のための生活に関する律法としてあったということです。